

農試第302号
平成21年7月1日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場 病害虫防除室
Tel	0776-54-5100
FAX	0776-54-6403
E-mail	byogaicyu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

平成21年農作物病害虫発生予察予報第5号

7月の気象概況

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は平年並み、降水量は平年並み、日照時間は平年並みと予想されます。

[水稲関係]

病害虫名 葉いもち

1 予報内容

発生時期：進展期は7月3半旬、発病最盛期は7月下旬

被害程度：少発、ただし山間、山沿い、常発地では中発

発生量：平年より少なく、前年並み。

2 防除対策

(1) 散布剤での防除適期は7月2、3半旬頃となると見込まれる。粒剤を施用していない圃場では、治療効果と予防効果を併せ持つ薬剤で防除を行う。散布時期が遅れると防除効果が劣るので、注意する。

(2) 薬剤を散布した圃場でも、新たな病斑が見られた場合は、散布10日後に追加防除を行う。粒剤を施用した圃場でも、病斑の発生が認められる場合は追加防除を行う。

(3) 降雨続きの際は雨のやみ間を見て、雨のやみ間がない時は小雨の時にでも薬剤を散布し、防除が遅れないように努める。

(4) 直播田や遅植田では、葉いもちの発生が多くなる恐れがあるので、特に防除を徹底する。

(5) 葉いもちが多発している圃場では穂肥の施用を控えめにする。

病害虫名 早・中生穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発は7月6半旬頃

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み。

2 防除対策

- (1) 出穂直前と穂揃直後の2回、DL剤または液剤で防除する。特に出穂直前の防除は、葉いもち病斑から穂への感染を防ぐために必ず行う。
- (2) 出穂直前の低温や、穂揃期以降に降雨が続くなど多発が予想される場合は、傾穂期にDL剤または液剤で追加防除を行う。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合は、雨のやみ間をみて、適期に防除を行う。
- (4) 穂いもちの予防粒剤は、薬剤によって施用時期が異なるので注意する。葉いもちの見られる水田では、粒剤は施用しない。粒剤を施用した水田でも多発が予想される場合には、出穂期にDL剤または液剤で防除する。
- (5) 同一系統薬剤、特に有機リン剤の連用は避ける。
- (6) イクヒカりは他の品種と同様に防除する。

病害虫名 白葉枯病

1 予報内容

発生時期：初発は平年並みの7月中旬末
 被害程度：少発
 発生量：平年、前年並み

2 防除対策

- (1) 粒剤は穂いもちの防除を兼ねて、出穂3～4週間前に散布する。
- (2) 常発地では窒素過多にならないようにする。

病害虫名 紋枯病

1 予報内容

発生時期：垂直進展初期は平年並みの早生が7月3半旬、中晩生は7月4半旬
 被害程度：少発、局中発
 発生量：平年より多く、前年並み。

2 防除対策

- (1) 穂ばらみ期の発生株率が早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。しかし、倒伏すると進展しやすいので、倒伏が予想される場合は基準に達していなくても防除する。
- (2) 薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
- (3) 粒剤を散布した圃場でも、発病株率が高く多発生が予想される場合には、粉剤、液剤による防除を行う。また、出穂前に粉剤、液剤を散布した圃場でも、降雨が続く多発生が予想される場合は穂揃期に、追加防除を行う。
- (4) 晩生品種、直播栽培などで、発生が多い圃場は7月下旬に散布する。
- (5) 散布時には、薬剤が株元の病斑によく付着するように散布する。

病害虫名 ニカメイガ

1 予報内容

発生時期：第1世代成虫発生最盛期は平年並みの8月初め、第2世代幼虫加害初期は平年並みの8月2半旬。
 被害程度：少発、局多発
 発生量：平年、前年より多い。

2 防除対策

- (1) 発生の多い所では、第1世代成虫発生最盛期から5日後頃までに防除を行う。
- (2) 前年発生が多かった圃場周辺の窒素過多田、直播田、遅植田、もち品種などで多発し、白穂や倒伏等の実害が出るので注意する。

病害虫名 ツマグロヨコバイ

- 1 予報内容
発生時期：発生最盛期は平年並みの8月中旬頃
被害程度：少発
発生量：平年より少なく、前年より多い。
- 2 防除対策
(1) 7月での防除の必要はない。

病害虫名 セジロウンカ

- 1 予報内容
発生時期：加害盛期は平年並みの8月中旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：前年より多く、平年並み。
- 2 防除対策
(1) 7月中旬に株当たり成虫4頭以上、7月下旬～8月上旬に株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は薬剤を散布する。

病害虫名 斑点米カメムシ類

- 1 予報内容
発生時期：成虫の本田侵入最盛期は7月4半旬。
被害程度：少発、局中発。
発生量：平年並み、前年より少ない。
- 2 防除対策
(1) 水田周辺雑草地での増殖を抑えるため7月上旬までに除草を徹底し、カメムシ類の生息地をなくす。
(2) 出穂期以降の草刈りはカメムシの水田内への侵入を助長するので注意する。
(3) 粉・液剤での防除は、穂揃期～乳熟期と糊熟初期の2回薬剤散布を行う。
(4) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が違うので注意する。(詳細は防除指針参照)
(5) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際は畦畔も含めて防除する。また、カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。
(6) 斑点米産出能力の高いホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が多い場合は、さらに収穫14～7日前にも防除する。ただし、使用基準を遵守する。

病害虫名 イネツトムシ (イチモンジセセリ)

- 1 予報内容
発生時期：第2世代幼虫加害最盛期は7月5半旬
被害程度：少発、局中発
発生量：平年、前年より多い
- 2 防除対策
(1) 直播栽培において7月下旬の若齢幼虫数で1㎡あたり4.4頭以上の場合は防除する。
(2) 葉色の濃いイネに産卵が多いので、注意する。

病害虫名 イネアオムシ (フタオビコヤガ)

- 1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月4半旬頃から

発生程度：少発、局中発

発生量：平年より多く、前年並み。

2 防除対策

(1) 過繁茂のイネでは多発生しやすいので注意する。

(2) 山間や集落周辺など風通しの悪い地域や水田では多発生しやすいので、防除が遅れないようにする。

[ダイズ関係]

病害虫名 ウコンノメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月下旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より多く、前年並み

2 防除対策

(1) 葉の巻き始める若齢幼虫期に防除するのが効果的である。

(2) 山沿いの圃場での発生が多くなり、特に生育旺盛な圃場で集中的に被害を受けるので注意する。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予報内容			防除対策
		発生時期	被害程度	発生量	
スイカ	つる枯病	最盛期： 7月中旬	少発 (局中発)	平年：やや少 前年：少	1)排水をよくし、敷きわらを行い、過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用せず、ローテーション散布する。
	炭疽病	最盛期： 7月中旬	少発 (局中発)	平年：やや少 前年：並み	1)通風、排水をよくし、敷きわらを十分にする。 2)多湿を避ける。 3)同一薬剤を連用せず、ローテーション散布する。
	疫病	最盛期： 7月下旬	少発 (局多発)	平年：並み 前年：やや多	1)排水をよくする。 2)予防散布を行う。
キュウリ	うどんこ病	最盛期： 7月下旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：多	1)多肥栽培しない。 2)同一薬剤は連用せず、ローテーション散布する。
	べと病	最盛期： 7月中旬	少発 (局中発)	平年：やや少 前年：やや少	1)排水をよくし、敷きわらを行い、通風、採光をよくする。 2)肥料切れを避ける。
ネギ	さび病		少発 (局中発)	前年：やや少	肥料不足や窒素過多にならないようにする。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
全般	アブラムシ類	加害盛期： 7月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	対象作物により薬剤が異なるので注意する。
	ハダニ類	加害盛期： 8月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	対象作物により薬剤が異なるので注意する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナシ	黒星病	最盛期： 7月下旬	少発	平年：少 前年：少	同一系統薬剤の連用は避ける。
	黒斑病	最盛期： 7月下旬	少発	平年：少 前年：少	同一系統薬剤の連用は避ける。
	ハダニ類	加害初期 7月中旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	1)発生を確認したら早めに防除する。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。
ナシ カキ	カメムシ類	加害盛期 7月下旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1)発生を確認したら早めに防除する。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キク	白さび病		少発	前年：並み	1)罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2)日当たり、風通しを良くする。 3)同一系統薬剤の連用を避ける。
	アブラムシ類	加害盛期 7月中下旬	少発 (局中発)	前年：やや多	同一系統の薬剤の連用を避ける
	オオタバコガ	幼虫加害 初期： 7月上旬	少発	前年：やや少	1)若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2)同一系統の薬剤の連用を避ける